

町長退任の挨拶



目黒 吉久氏
平成20年12月16日から
2期8年町長を務めました

る大変な時代でした。災害復旧に多くの労力と時間を費やさなければならぬ状況において、少しでも未来に向けた町政運営に当たることができましたのも、町民各位のご理解とご協力、寛大な心の賜物と感謝いたします。

12月15日、町長の任期が満了となります。退任するにあたり2期8年、町民の皆様には多大なご支援を頂きましたことに改めて感謝申し上げます。顧みますと瞬間に時は過ぎ去り、たくさんの出来事がありました。世界的な経済・金融危機、テロの拡散や紛争の多発、異常気象と巨大な自然災害、国内では長く経済不況や政界の混乱と政権交代、東日本大震災と福島を汚した原発事故、そして只見では未曾有の災害となった新潟・福島豪雨、その後も毎年のように災害が引き起こ

私は町政50周年という節目の年に町長に就任いたしました。50周年を共に祝い、この間培われた大切な本町の歴史や文化を引き継ぎ、更なる飛躍をお互いに誓い合うところからスタートしました。当初私は「農業」の基盤を確立し、その土台の上に「商・工・観光」業の基幹産業の柱を立て、更にその上に連携した「人」の屋根をかけるというものでした。高齢化と米価の低迷する中、水田農業が一番悩ましい課題ですが、それでもイターンを含めた元気な農業者が育ち、農産加

工にも挑戦がみられます。観光まちづくり協会も一般社団法人となり、旅行業も含め農家民泊などに力を入れ、奥会津の観光・誘客の核として活躍してくれています。教育分野においては「自然首都・只見」に相応しい人づくりを目指し、地域人材育成事業や只見学の推進を図ってきました。小・中学校の教育環境の充実はもとより、只見高校の振興に向けて山村教育留学制度に力を入れ、現在学生寮の増設中です。保健・医療・福祉が一体となった町づくりにも力を入れてきました。診療所に常駐医師がいない経験をした町にとつて診療所医師の安定した体制を堅持しながら、地域包括ケアの構築を目指し、高齢者グループホームの設置支援や小規模特養あさくさホームの整備を図りました。雪国の生活対策として屋

根の克雪対策事業や除雪支援保険事業の充実を図り、除雪機導入の支援を進めてきました。集落対策としては交付金制度を設けましたが、区民及び活動団体となお一層の情報連携が必要であります。町にとつての大きな転機は新潟・福島豪雨でした。復興に向けて「1. 将来にわたる安全・安心な地域づくり」、「2. 活力ある社会経済の再生」を基本理念に掲げました。その実現のために「自然首都・只見」ブランド確立の検討委員会を立ち上げました。その結果、「ユネスコエコパーク」の登録を目指すことになり、多くの方々のご指導と支援を受けながら、平成26年6月にその努力が実りました。世界の評価を受けたことは町の誇りであり大変うれしいことです。10年間の行動計画も策定されその基本理念は第7次振興計

面に反映されました。着実にあせらず、絶ゆまず、諦めず取り組んで行くことです。また、心残りは豪雨災害時の町の対応について、被災された町民の方達と町との間に係争を残してしまったこと、そして役場庁舎建設も長い時間と多額の費用をかけながら完成をみなかったことは、町長として慚愧に堪えません。八十里越の開通も目前に迫りつつあり、只見線の全線復旧も必ず実現するものと思います。

只見は今、地勢学的に立ち位置が変わろうとしていますが、この期に新町長になられる菅家三雄氏の力が充分に発揮できますように町民の皆様におかれましては町の将来のためにご協力をお願いいたします。菅家町政のもとに町の更なる飛躍を期待し退任の挨拶とさせていただきます。

させていただきます。